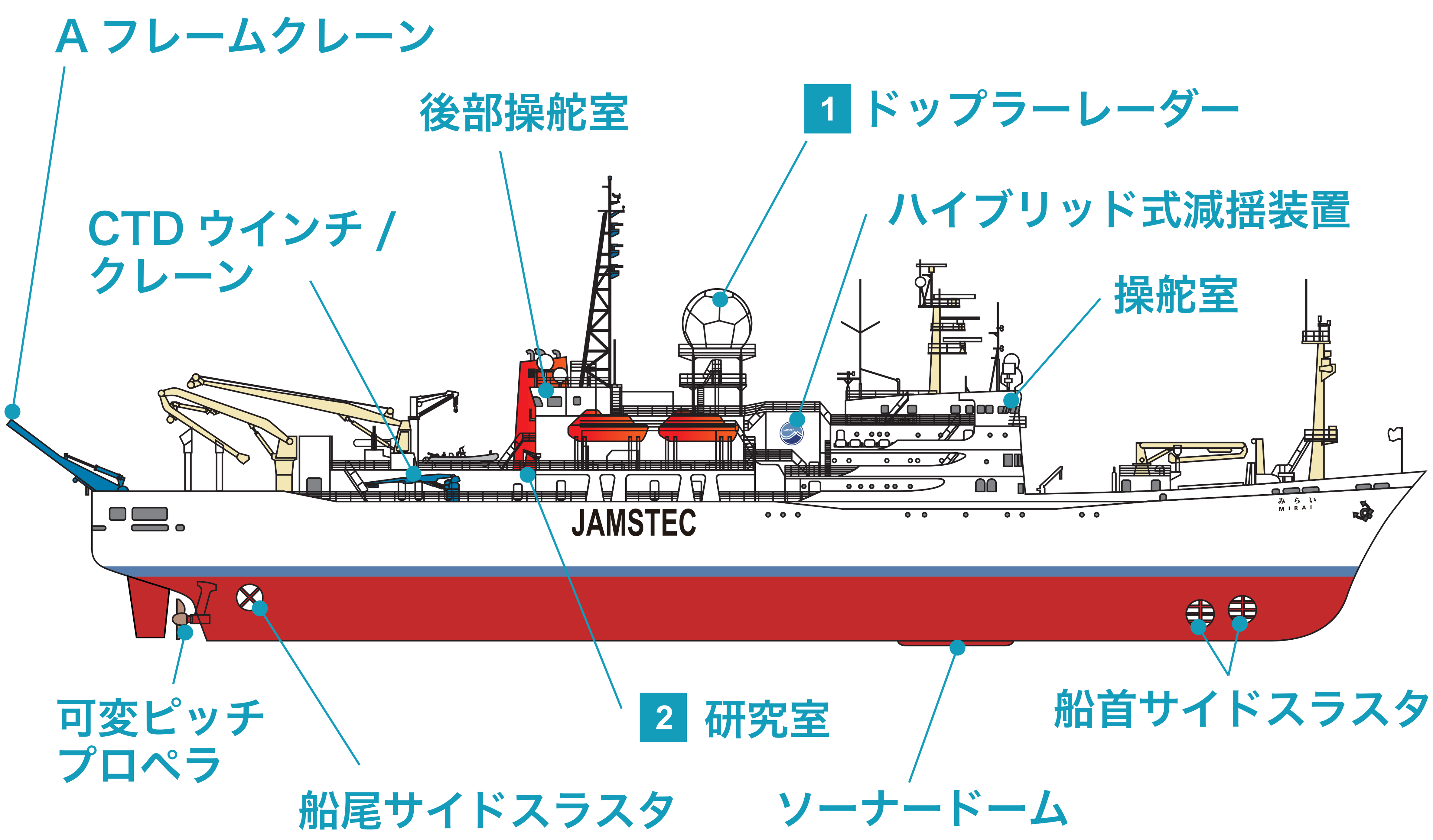
海洋地球研究船「みらい」

運用主目的	外洋域での海洋環境変化の調査
竣工年	1997 年
全長 × 幅 × 深さ	128.5 × 19 × 10.5 m
満載喫水	6.9 m
国際総トン数	8,706 トン
巡航速力	11.5 ノット
乗員（うち研究者等）	80名（46名）
推進方式	ディーゼル推進
推進装置	可変ピッチプロペラ × 2軸

極域を航行できる耐氷性を備え、世界中を広範囲で長期航海できる船

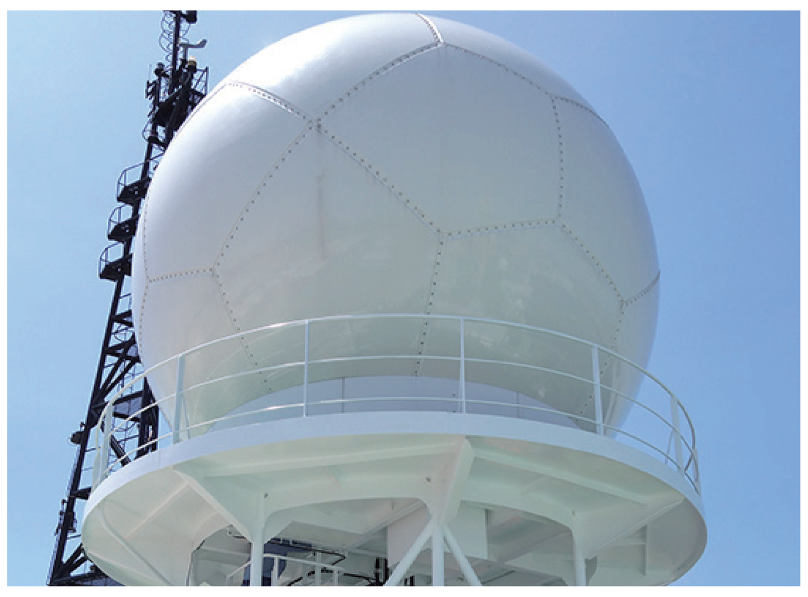
前身は日本初の原子力船「むつ」であり、船体を切断、原子炉を撤去し船体後部を新たに建造した後、「みらい」と命名されました。優れた耐氷性能を持つことで極域での操業も可能な上、ハイブリッド式減揺装置により荒天でも高い航行性を有し、広域かつ長期間の観測・研究が可能となっています。北極海や太平洋、インド洋、亜熱帯・亜寒帯海域など世界各地で海洋の熱循環・物質循環、海洋の生態系、地球の環境変動などの海洋調査を行っています。

主要設備



1 ドップラーレーダー

大気中の水粒子の反射の強さを測定することで、雨や雪の強さを広範囲で測定することができます。またドップラー効果を利用することで、雨や雪が降っている場所の風速を推定することができます。



2 研究室

上甲板はドライラボ、セミドライラボ、ウェットラボ 1&2 といった堆積物・地球物理関係の部屋が主に備わっています。第二甲板は主に海洋関係の生物・化学分析室、クリーンルーム、オートサル室が備わっています。第三甲板は、堆積物試料保管室、低温実験室、X 線室が備わっています。